

令和4年度第2回市制施行100周年記念絵本制作委員会会議議事録

1 開催日時及び場所

令和4年10月20日（木）17:00～18:30

宇部市立図書館 2階講座室

2 出席委員の氏名

山本 安彦委員、 内田 鉄平委員、 早川 加代子委員、 脇 彌生委員、
安井 敬子委員、 堀 宏治委員、 林 直子 委員

3 事務局職員

上村教育部長、 床本教育次長

石津学びの森くすのき・地域文化交流課課長

石川学びの森くすのき・地域文化交流課副課長

4 議事

(1) 構成内容の検討

(2) 制作方法の検討

5 会議要旨

会長	議事（1）構成内容の検討について事務局から説明していただきたい。
事務局	先日お配りした「100周年のあゆみ」から、絵本に掲載したい項目をAからCにランク付けをし、Aが3つ以上あったものをピンクに、Bが3つ以上あったものを黄色に色分けし、集計したものをお渡ししている。 これを参考に絵本に掲載したい内容を考えていただきたい。現在、40ページの絵本の制作を考えており、見開き1枚とすると、20枚の絵を掲載するようになる。宇部市の100年の歴史の流れをどのように20枚の絵にしていくのか、皆さんに考えていただきたい。
会長	20枚の絵、その1枚1枚の絵の中にどのような情報を盛り込んでいくのか、一緒に考えていければと思う。 例えば、古代、中世で各1枚、近世、近代を10年ごとに描いていく方法もある。また、掲載できなかった事項については、巻末に年表や資料として追加することもできる。
委員	個人的には、市制施行してから50年の間に絵になるような出来事が多くあるように感じる。10年ごとに区切るのは無理があるのではないか。
委員	常盤公園が子どもにとって重要だと思う。常盤公園が開園し、その後、どのように発展していったのかをまとめていくのもいいのではないかな。
委員	宇部市が発展していく様子を年代ごとに追うのもいいが、一つのものに焦点を当ててまとめてみるのもいいのではないかな。
委員	10年ごとにすると、どうしても集中する年度がある。先ほど意見があったが、ときわ公園を軸にして、物語を構成してくなど、そのあたりのテクニク的なことを決めた方がいいのではないかな。
委員	出来上がった絵本を通じて、子どもたちが自分の故郷をどのようにしていきたいのか、発想の元となるような感動が与えられればいいと思う。この絵本が単

	に年代ごとの宇部市の歴史を知るものなのか、それとも、今までの宇部市の歴史を踏まえて「こんな街になってほしい、将来はこんな風になるんじゃないか」など、メッセージ性のあるものを持たせるのかで、内容も変わってくると思う。
委員	ランク付けをする際、かなり悩んだ。例えば、戦前戦中編・戦後編の上下巻にわけるのはどうか。
事務局	2冊制作するのは、予算的に難しい。
委員	子どもたちに何を伝えたいのか、そこを決めてから内容を絞っていくのも大事なのではないかと。歴史を伝えていくもの大事だが、ピンポイントで宇部市の歴史を感じてほしい部分に重きを置くのも必要なのではないかと。
委員	とにかく、子どもたちが飽きてしまわないこと。ワクワク楽しく展開していく、そんな絵本になればいいと思う。
会長	絵本なので、絵をぶつ切りにするのではなく、次のページを開かせる。開いていくことによって、ストーリーが展開していくようなものが望ましい。
委員	絵本は、印象的にとらえる面もあるが、学習面もあると思う。村からいきなり市になったという宇部市の歴史の流れを知り、それに沿って石炭の話や動物園、ときわ公園など枝葉を伸ばしていく方法もあるのではないかと。
委員	宇部市の環境政策は、動物園からスタートしている。やはり、ときわ公園で一つの物語ができると思う。
会長	絵本の対象年齢をどのあたりに設定するのかで、内容も変わってくると思う。小学生低学年であれば、少しユーモアを交えたり、高学年であればその中で学習できるようなものになるのではないかと。小学生の社会科副読本としても使いたいのであれば、歴史的な事柄も盛り込んでいく必要がある。
委員	宇部市ではデジタルミュージアムを開設しており、宇部市が誕生した時の写真など、多くの写真が掲載されている。その写真をピックアップしていけば、イメージがわき、ストーリーができるのではないかと。
会長	歴史のどこを強調したいのか、皆さんの知恵を借りたい。 実際の写真を絵本の中に入れるのもページによってはありうるのではないかと。
委員	写真をそのまま使うのもいいが、写真を見て、作家がイメージしてもらってもいいと思う。
委員	古い写真は白黒写真だと思う。子どもにはカラーか手書きがいいのではないかと。
委員	やはり、基本である宇部市の成り立ち、例えば宇部の語源なども絵本の中で触れてみてはどうか。
委員	宇部新川では明治30年当時、人が住んでいなかったが、その後10年で1万人の人が住むようになった。一か所を定点でとらえて、描いていくのも一つのテクニックだと思う。
会長	出版されている絵本の中には、街の一部を定点観測して変わっていく街の姿を描いていくものがある。その場合、特筆的なことが表現しきれない場合があるが、古代や中世、近世などは定点観測的に描いてみるのも面白いかもしれない。
委員	江戸時代と現在の宇部市では、地形が全然違う。そのようなところを印象的に描いてみては。
委員	小学生向けの副読本「わたしたちの宇部」にも、昔の宇部市の絵図が描かれて

	いる。それを活用してもいいのではないか。活用は可能か。
事務局	「わたしたちの宇部」は教育委員会が作成したものなので、活用は可能である。
会長	江戸時代の開作の風景が絵として浮かんできた。それから、宇部市と言えばやはり石炭だが、最初に石炭を発見した人がわかるのか。
委員	旧楠町には「石炭発祥の地」の碑があり、ときわ公園の中にも石炭発祥の地がある。宇部市には今、二つの石炭発祥の地があることになっている。
会長	石炭が一つのポイントとして挙げたが、そのほかにポイントはありますか。
委員	ときわ公園の中の石炭発祥の地は、石炭記念館を建設する際に石炭発祥の地と決めたもので歴史は浅いが、ときわ公園も石炭との関係はある。公害を克服においても、石炭が関係している。そのあたりを大きな筋道として枝葉をつけていけばいいのではないか。
会長	具体的には、どのようなになるのか。
委員	例えば、石炭を運ぶ宇部軽便鉄道や、船木にあった鉄道など。
会長	石炭、ときわ公園以外で他にどこにあるか。
委員	やはり戦争、敗戦ではないか。その前後から宇部市が大きく変わった。50メートル道路ができ、市が発展していった。
会長	戦中・戦後で絵になるような出来事があるか。
委員	宇部興産も戦中に業者合併があったのではないか。また、渡邊翁記念会館の建設等もある。
会長	宇部市には空襲があったのか。確か宇部市は原爆の模擬爆弾が落とされたのでは。
委員	原爆模擬爆弾投下の候補地になっていたと聞く。
委員	空襲により市の中心地は壊滅状態となった。歴史的にこのことは、外せないと思う。
会長	戦後の急速な発展ということと対比して、戦中戦後の荒廃を表していくのもいいと思う。ほかには何かないか。彫刻は当然外せないと思うが。
委員	彫刻はすべてに関係してくると思う。
委員	宇部市では山口大学と連携して、宇宙技術に関するセミナーなどを行っている。絵本の最終ページは、子どもたちの未来が宇宙に向かっていくような形にしてはどうか。
委員	宇部市には産業技術センターがあり、宇宙技術の開発にも連携していると聞く。そういったことも取り上げてもいいのではないか。
会長	ほかに何かあるか。
委員	石炭から始まり、花いっぱい運動からビエンナーレ・彫刻へ。そして環境問題へと宇部市の発展はつながっていると思う。
会長	公害の様子は絵になるのか。負の歴史のようなものになるが。
委員	花いっぱい運動から続く花壇コンクールなど公害を克服した歴史を描いてはどうか。
委員	ビエンナーレの作品のなかにも、宇部市が公害・環境問題にとりくんでいるというメッセージが入っているものがたくさんある。
委員	宇部の歴史は炭鉱、石炭の歴史と思う。小学生の頃、煤塵の降るまちだったが

	それを市民の力で克服したということを知り、幼心に誇らしく思った。
副会長	絵本を通して歴史を学んでいくことは大切だが、どの年齢を対象にするのか、何を伝えたいのか、どのような絵本にしたいのかを皆で共通理解して選ぶのがいいのではないかと。絵本を読んで宇部に住んでよかった、宇部のために何か関わることはないかと子どもたちが思ってくれればいい。
委員	事務局ではどの年齢を対象にするか考えているのか
事務局	絵本なので小学校低学年を対象として考えている。内容的には大人も楽しめるようなものができればいいと思っている。
委員	小学校2、3年を対象とすることでよいか。
事務局	小学校3年前後と考えている。
会長	副読本として使うことはイメージしていないのか。
事務局	副読本は学校教育課が作成しているものがあるため、絵本では歴史をきちんと追っていくものではなく、読んで楽しめるものにしたい。
会長	絵本の対象が小学校低学年ということであれば、絵を見ただけでわかるところがポイントになると思う。何度も開くようにするには、開くたびに発見がある絵の描き方が求められると思う。
委員	描き方についてはある程度の大枠を決めることにして、あとは作家の裁量枠を持たせた方がいいのではないかと。
会長	作家にいろいろ注文するのではなく、絵本にしてほしいポイントを提示するような形にしたほうがいい。自由に描けるところがないと、その作家の持ち味が出せない。絵で表現できないところは、巻末に資料として掲載すればいい。委員には、絵にしたい20の場面を事務局が用意している表に記入していただきたい。
事務局	次回の会議にそれぞれ記入していただいたものを整理し、提示したいので11月末までに事務局へご提出いただきたい。
会長	次に議事(2)制作方法の検討について、事務局から説明していただきたい。
事務局	絵本の制作過程としては、絵本作家が絵本の構想を考え、それを出版社に持ち込み担当者と打ち合わせをする。その後、絵本の原画・文章を作成、レイアウトや色の構成等を行い印刷製本する流れになる。
会長	事務局としては何部印刷する予定か。
事務局	1000部を予定している。学校や幼稚園・保育園には紙ベースの絵本の配置もするがインターネットでのデジタル配信も考えている。学校では児童にタブレット端末を配布しており、電子図書として絵本を読めるようにしたいと考えている。
委員	絵本をインターネットで公開する際は、無料で公開するようになるのか。
事務局	無料での公開を考えている。
委員	そうすると、著作権も宇部市が買い取ることになり、費用がかかるのではないかと。
事務局	金額的なことや配信方法については、今後、検討していきたい。
会長	今後の検討課題として考えたい。その他に事務局から何かあるか。
事務局	一般的な絵本の制作過程は先ほど説明させていただいたが、100周年記念絵本の制作について、事務局で5案ほど考えている。1案が実績や著名度のある宇

	部市出身の絵本作家に依頼し、印刷製本については業者が行う。2 案が宇部市在住または出身の画家に絵を描いてもらい、文書は別ライターに依頼する。印刷製本については業者が行う。3 案が実績や著名度に関係なく宇部市在住又は宇部市出身の絵本作家を対象に公募により募集する。印刷製本については業者が行う。4 案が市内外を問わず公募によって絵本作家を募集し、印刷製本については業者が行う。5 案が市内外を問わず公募によって絵本制作を行う事業者を募集し、作画、文書作成、編集、印刷製本を一括してその業者に委託する。1 案については、会長を通じて絵本作家へ打診していただいたが調整がつかなかった。また、直接メールで打診等を行った作家もいるが、連絡がつかない状況である。
委員	5 案のプロポーザルにより出版社と契約するやり方が一般的だとは思うが。
会長	絵本を出版するのであれば、やはり、児童書専門の出版社がいいと思うが、受けてくれる出版社があるかどうかはわからない。
事務局	絵本制作については、令和 3 年度に市制施行 100 周年記念事業推進課が担当しており、出版社についてもいろいろと打診していたようだが、制作を受けていただけるところがなかったと聞いている。
委員	出版社は、予算や売上げをシビアに計算して、制作の有無を考えるので大手の児童書専門の出版社は難しいかもしれない。
会長	出版社は、その絵本が商業出版として成り立つかどうか、また、自治体がい上げてくれるかどうかを考える。
委員	他市町で絵本を作っているところがあると思うが、どのような手法で制作しているのか。
事務局	出版社が制作し販売しているものもあるが、多くは市町が主として制作に携わり市町で販売しているようだ。
会長	絵本の制作について、再度、出版社へ打診してみてもどうか。 委員の中で出版社とつながりのある方がいれば、聞いていただきたい。
事務局	出版社への打診もしていくが、受けてもらえない場合のことも考えておかないといけない。その場合、公募により画家や作家を募集することになるが、宇部市出身または在住の画家、作家にお願いした方が良いと思われるか、委員にお聞きしたい。
委員	やはり、絵を上手に描ける人。いろいろなメッセージがその絵の中に込められる人がいいのではないかな。
委員	市としては、宇部市出身の人がベストだとは思うが、宇部市出身だけでも絵はそこそこの人と、他市の人でも絵がうまい人をお願いするのか、いろいろな考え方があろうと思う。
会長	絵本作家を公募で選定した場合、編集作業は事務局あるいは委員会が行わなくてはならない。編集によって、絵本の出来栄が変わってくる。
委員	出版社を介した場合は編集者が付くので、そのあたりの心配はない。
会長	出版社への打診も行いながら、同時進行で絵本作家を公募する準備も行ったほうがよい。出版社での制作になったとしても、ある程度こちらのイメージを伝える必要はある。

委員	絵本の場合、出版社と作家を見て購入する人もいる。読み聞かせをされる場合出版社や作家を選んでいるか。
委員	読み聞かせする場合、特に出版社や作家にこだわりはない。テーマ性で選んでいる。いかに子どもの心を動かせる作品かどうかで選ぶ。
会長	やはり編集者の力が大きいと思われる。 出版社での制作と絵本作家を公募する方法の同時進行で進めていただきたい。 本日の議事は以上ですが、その他、何かありますか。 ないようでしたら、以上で会議を終わります。